
モンスターハンター 強がりハンターの狩人日記!

Vanizel

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター 強がりハンターの狩人日記！

【Nコード】

N5036L

【作者名】

Vanizel

【あらすじ】

太刀使いの少年ハンター、コルバは地元の奴らを見返すためにモガの村へとやってきた。そこでその村にいたボウガン使いの少女ハンターと共にドスジャギイを狩りに行く。ドスランポスと同じだろ。そう考えたコルバだったがドスジャギイに悪戦苦闘を強いられる。突如そこに現れたモンスターとは！？

膨らむ期待

少年は船に揺られていた。

一人でせつせとジャガイモの皮むきをしていたのだが、退屈すぎて睡魔が少年をしばしば襲う。

「……あつ」

軽く居眠りをしていたようでイモを落としてしまった。

「よかった。くずれなかった。」

ジャガイモについた汚れを軽くはらって皮むきを再開した。

部屋の隅には愛用の武器が立てかけてある。

少年はハンターだった。少年の名はコルバ。なぜこんな事をしていくかというと……。

「早くつかないかなあ……」

ある村へ移動中なのである。コルバが住んでいた地域とは交流があまりなかったために船が見つからず、困っていたらこの船の船長に声を掛けられたのだ。

この船にはたくさんの人がのっている。それはこの船がいわば交易船というやつだからだ。たくさん積荷があるため、船長が

「嵐に対しての対策はばっちりゼヨ」

と得意げに話していた。その点は安心できるが、タダで乗せてもらっているためにこうして下働きをしなければならないのだ。人が多いために食材の量も多い。このジャガイモだってそうだ。やつと半分ほどは終わったが、ここまでやるのに30分ほどかかったために残り半分も同じくらいかかると思われる……。

コルバはチラリと振り返って愛用の武器の眺めた。

骨刀【鮫牙】という太刀だ。これで数多のモンスターを切り捨ててきた。

だがまだまだコルバは新人の部類に入る。

いまだにランポスだって怖いし防具もバトルシリーズと貧弱だ。

目的地・・・モガの村に行くのだからって臆病な自分を見られたくないからここで修行をして、地元をやつらを見返すという目標あってこそだ。それがなければわざわざこんな村まで来ない。

「よし、さっさとおわらせるぞおお！」

気合の入ったコルバは、皮むきを10分ほどでおわらせてしまった。

「腹へった~~~~~！」

コルバは期待に胸を躍らせながら調理班主任に報告をしに行くのだった。

「おおお！うまいゼヨ」

船長は夕食のカレーを食べた一口目でまず深く味わうようにして食べているように見える。

「ふ、ふ、ふががあ・・・」

そして二口目で、というか残りすべてを一気にかき込んだ・・・。

「すごいな船長・・・」

コルバはただ感心したと同時に嬉しさが込み上げる。ジャガイモの皮むきとはいえ、このカレーを作るのを手伝ったことには変わりない。

コルバも一口食べてみた。

「・・・う、うまい・・・」

ただのカレーだが、ここで釣ったハリマグロの味がきいているためただのカレーとは思えないおいしさがある。

「おかわりくれゼヨ~~~~！・・・あ、コルバ！明日にはモガにくから用意をしておくゼヨ！」

「おーマジで！？ありがと船長~~~~！」

ふう、やっとあの食材の地獄皮むきから開放される！

正直、疲れた。体が鈍っていないか心配だ。一応それでもハンターなのだからこのくらいの心配はする。

「フッフッフ・・・気にするなゼヨ。むしろ助かっていたゼヨ！ー

人で三人分の皮むきをしてきていたからもつとどっついてほしかったぜヨ！」

「ええ！？三人分！？聞いてないよ！だからあんなに多かったのか……」

さっきまでの気持ちは吹っ飛び、悔しさと詳しく確認しなかった自分への怒り、そして呆れが湧き上がってくる……。

「フフフフ、ゼヨ。潮風がワシをよんでいるゼヨ！！」

「……くそ！……ふ、ふがふが……」

コルバもカレーを流し込むように食べた。今日はもう明日に備えて寝よう。

「おお〜コルバも見事な食べっぷりゼヨ！お！やっとおかわりがきたぜヨ！」

「……っそさん」

音を立てて食べ始める船長に背を向け、コルバは自分の部屋へと向かった。

「手入れ、しところかな」

太刀に砥石だけかけて、今日はもう眠ることにした。

寝ながらコルバは明日からの日々に期待を膨らませていた。

膨らむ期待（後書き）

はじめまして。この小説が初投稿です。まったくの未経験であるため誤字脱字があっても気にせずよみますんでください。あと、学生ですので毎日の投稿は難しいかもしれませんができるだけ頑張ります。+明日から野外活動のため3日間投稿できません。本当にすみません。では、この小説を楽しんで読んでいただけたら良いと思います。

・・・ちよつとだけ、現時点で考えている次回の予告です。村に着いたコルバはその村にもともいたライトボウガン使いの少女ハンターとドスジャギイの討伐依頼を受けます。

「どうせドスランポスと同じだろ！ちよろいちよろい」と出かけて見るのですが・・・。

さあ、ここまでにしておきましょう。では次回までしばしお待ちください！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5036/>

モンスターハンター 強がりハンターの狩人日記!

2010年10月28日05時35分発行